

問題訂正

令和7年度 前期日程

試験科目	小論文
------	-----

(A 類家庭コース, B 類家庭コース 対象)

問題冊子 3 ページ 1 行目

大問 II

説明文

「間い」を「問い」に訂正する。

以上

〔A類家庭コース, B類家庭コース 対象〕 前期

小 論 文

令和7年度
一般選抜前期日程
私費外国人
帰国生

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
2. 受験者は、この問題冊子のなかのすべての問題に解答すること。
3. 解答は別紙の解答用紙に記入すること。
4. 解答用紙に受験番号を記入すること。

I 以下の問いに答えよ。

問1 図は国民1人・1日当たりの供給熱量の構成の推移を、表はたんぱく質、脂質、糖質(炭水化物)の供給熱量割合の推移を示したものである。図と表から読み取れる、日本の食生活の変化と、現代の食生活を取り巻く課題を述べよ。

問2 問1を踏まえ、家庭科の食生活分野でどのような学習内容が必要か、あなたの考えを述べよ。

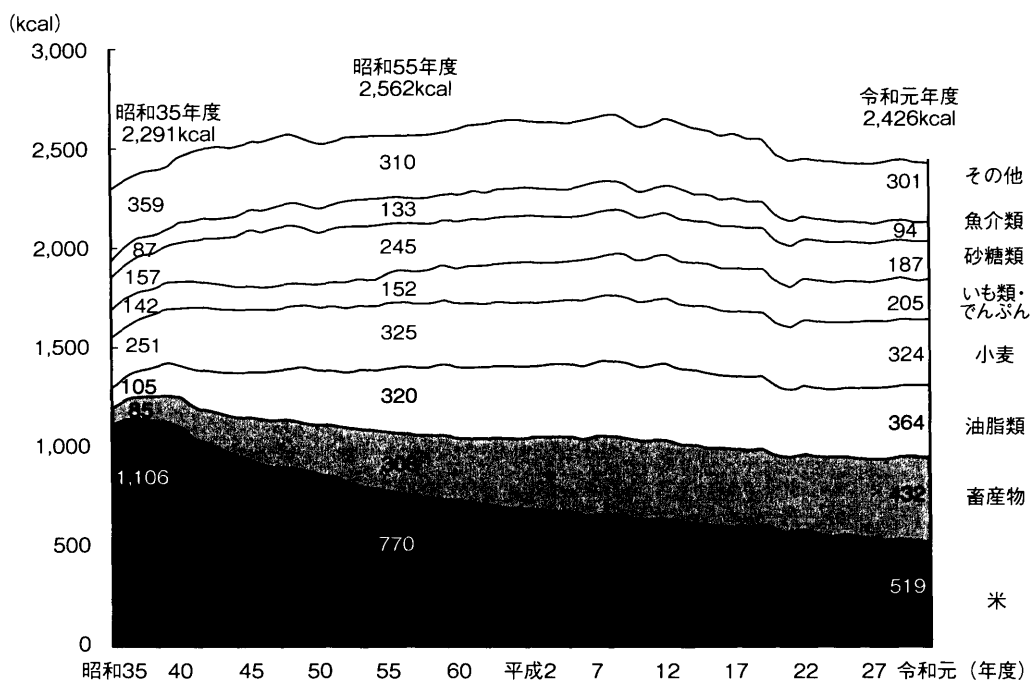


図 我が国の食生活の変化(国民1人・1日当たりの供給熱量の構成の推移)

(出典：農林水産省「令和元年度食料需給表」)

表 たんぱく質, 脂質, 糖質(炭水化物)の供給熱量割合(PFC 熱量比率)

(単位: %)

	たんぱく質 (P)	脂質 (F)	糖質(炭水化物) (C)
昭和 35 年度	13.3	10.6	76.1
昭和 45 年度	14.0	18.9	67.0
昭和 55 年度	15.0	22.6	62.4
平成 2 年度	15.5	25.3	59.2
平成 12 年度	16.0	26.5	57.5
平成 22 年度	14.6	26.1	59.3
令和元年度	15.0	29.0	56.0

注: 昭和 35 年度～平成 2 年度は、「国民栄養の現状」, 平成 12 年度は「国民栄養調査」, 平成 22 年度, 令和元年度は「国民健康・栄養調査」の結果を基に算出した。算出に当たっては, 熱量からたんぱく質(g) × 4 kcal/g + 脂質(g) × 9 kcal/g を差し引いたものを糖質(炭水化物)の成分値として比率を求めた。

Ⅱ 日本の子どもの貧困についての次の問いに答えよ。

問1 子どもの貧困が、子どもの人生に与える影響について述べよ。

問2 日本では、シングルマザーの子どもの貧困率が高いことが知られている。その理由と解決策について、あなたの考えを述べよ。

注：子どもの貧困率とは、子ども(17歳以下)全体に占める、等価可処分所得の中央値の半分に満たない世帯の子どもの割合をいう。